

オリンピック聖火リレー、埼玉県通過

上原 昇（2組、さいたま市大宮区在住）

オリンピック開会式を2週間後に控えた7月8日（木）、コロナウイルス感染状況は収束どころか増加傾向を示し、東京都は4回目の緊急事態宣言を発出せざるをえなくなりました。

オリンピック観戦の無観客化も当然の措置かと思えます。

国立競技場の計画変更やエンブレムの盗作から始まり、コロナ禍による開催1年延期、そして組織委会長の辞任に至るまで負の連鎖が続き、呪われたオリンピックといわざるを得ない状況となりました。

そんな中、聖火リレーは3月25日に被災地の福島県をスタートして、121日をかけて全国を巡り、7月23日（金）開会式会場にゴールする予定です。

7月6日から8日までの三日間は埼玉県内での聖火リレーが行われましたが、埼玉県の中でも人口密度が高い川口市とさいたま市では公道での走行は中止して、セレモニー会場でのミニ聖火リレーを実施することになりました。

たまたま、8日のゴールセレブレーションが開催されたのが、筆者の住んでいるマンションの隣にある「さいたま新都心公園（さいたま市大宮区）」でした。

当日は朝から生憎の雨で、公園内には多くのテントが張られ、観客席には合羽姿の関係者が雨に濡れた椅子に座っていました。なんとも盛り上がらない聖火リレーでしたが、天がオリンピックの開催を泣いているかのように見えたのは筆者だけだったでしょうか。

聖火リレーは、翌9日から開催地の東京都に入り、15日間かけてゴールします。ただ、東京でも公道でのイベントは中止となり、ここでもまた異例の聖火リレーとなりました。7月23日のオリンピック開始から、9月5日のパラリンピック閉会までの間、コロナ感染が広がらないことを祈っています。

【写真1:聖火リレーで使われるトーチ】



【写真2：埼玉の聖火リレー会場の様子】



(2021年7月9日)

以上